

◆吾妻川・ハッ場ダムエリア

長野原町を流れる一級河川吾妻川には、首都圏の水害防止や水利用に資することを目的として、国土交通省が建設中の「ハッ場ダム（やんばダム）」があります。様々な歴史的経緯や紆余曲折を踏まえ、昭和27年の事業開始から68年目となる平成32年3月末に、完成予定となっています。

現在、水没による高台の代替地への移転を含む家屋470世帯の移転は完了しており、ダム本体の堤体コンクリート打設工事が行われているところです。堤体はほぼ所定の高さまで打ち上がっており、残る工事や試験湛水を待つところとなっています。

また、ダム本体の建設に並行し、国道・県道・町道の付け替え事業や地域振興を図るための事業が、水没エリアに生活していた住民の生活再建を目的として実施されています。これら事業内容の一部は、のちほど紹介させていただきます。



ハッ場ダム堤体（吾妻川上流側より）平成31年2月



ハッ場ダム湖予定地の一部

◆浅間高原・北軽井沢エリア

浅間山の火山活動による大地の営みをもたらした自然環境、それらと共生して暮らしてきた人々の歴史と文化が評価され、長野原町の全域が「浅間山北麓ジオパーク」として、平成28年9月に日本ジオパーク認定されました。

ジオパークを構成する要素として、先ほどご紹介した吾妻川・ハッ場ダムエリアを含む吾妻川沿いの他、浅間高原・北軽井沢エリアでは噴火により形成された舞台溶岩を回遊することができるトレッキングコース「スカイロックトレイル」が整備され、ガイドツアーを開催しています。また、北海道の広大な原野を思わせる「県営浅間牧場」では、活性化の一環として遊歩道が整備されるなど、雄大な浅間山の自然や周辺山脈の眺望が期待できる新たな名所として、誘客が期待されています。



浅間牧場内の遊歩道から浅間山を望む



高原野菜の産地（レタスの絨毯）



浅間山スカイロックトレイルツアーでの眺望

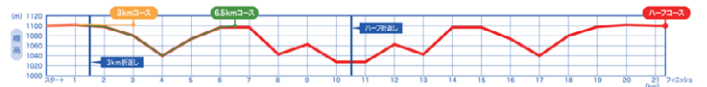
浅間高原・北軽井沢エリアのイベントとして、北軽井沢の高原および別荘地を駆け抜ける「北軽井沢マラソン」が毎年6月に開催されており、親子による参加がメインの3kmコースから、本格的なランナーの方々によるハーフマラソンコースまで、多数の参加者に楽しんでいただいております。マラソン開催にあたり、町道がコースに含まれることから、町内建設業者のご協力のもと、道路清掃や潜在的危険箇所の補修に努めています。

また、毎年2月には、雪原に灯される4,000本の祈願のろうソクが幻想的で美しい、「北軽井沢 炎のまつり」が開催されています。

このほか、民間営業として、浅間山北麓の大自然のもと手軽にキャンプが楽しめることで好評を得ているキャンプ施設や、夏期はゴルフやテニス冬期は浅間山から草津白根山までの大パノラマを楽しめる軽井沢スノーパークなど、浅間高原・北軽井沢エリアの魅力や資源を活かした施設が多数存在しています。



北軽井沢 炎のまつり



北軽井沢マラソン

ふたつのエリアをつなぐ、全国的に珍しい「国道3起点」

長野原町の羽根尾地区には、国道144号（長野原町～長野県上田市）、国道145号（長野原町～群馬県沼田市）、国道146号（長野原町～長野県軽井沢町）の国道3路線の起点が一箇所に集まる「国道3起点」が存在しています。3起点を構成する国道の路線名が連番で、しかも市ではなく町に存在するというのは、全国的にも珍しい場所となっています。

古くは、真田昌幸や幸村で名高い真田街道の一部であったことや、草津温泉に至るまでの宿場町としてこの付近が栄えたことから、道路としてここが要地であったことは間違いありませんが、なぜ国道3路線の起点として設定されたのか、現在に至っては不明となっています。

この3起点は、「吾妻川・ハッ場ダムエリア」を東西に横断する国道145号と、「浅間高原・北軽井沢エリア」を南北に縦断する国道146号の中継地点となっており、道路ネットワークとしては、これら2つのエリアを結ぶ象徴的な存在になっています。



ハッ場ダム建設にともなう地域コミュニティの生活再建

さて、吾妻川・ハッ場ダムエリアの紹介でも触れましたが、ダム本体の建設に並行し、住民の生活再建を図るための事業が実施されています。これらのうち、いくつかを紹介させていただきます。

◆国道・県道・町道の付け替え事業

住民の生活および地域の発展のため必要不可欠なもの、それはやはり道路です。

ダム建設により吾妻川沿いにあった各地区が水没することで、「ずり上がり方式」によりダム湖より標高の高い場所へ、代替地として移転することとなりました。これに伴い、もともとあった国道、県道、町道も機能を付け替えることとなります。現在、新たな国道および県道は全て開通しており、残る一部の町道整備を平成 31 年度末のダム完成までを期限として進めています。



ハッ場大橋と両岸の代替地



不動大橋と道の駅「ハッ場ふるさと館」

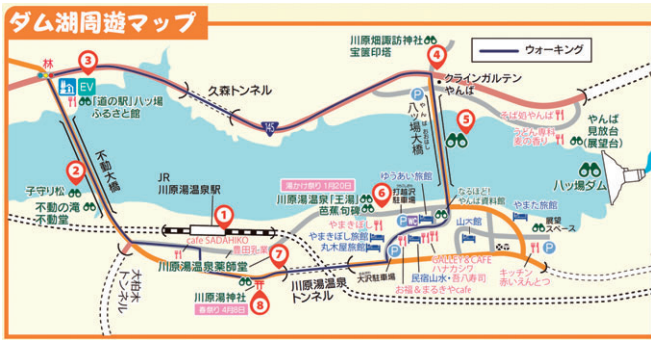


付け替え町道（川原湯地区：整備中）



付け替え町道（林地区：整備中）

付け替え国道、県道、町道を活用し、ダム湖により分断された両岸の代替地をつなぐ湖面橋（ハッ場大橋、不動大橋など）と、道の駅「ハッ場ふるさと館」や川原湯温泉を起点としたダム湖周遊コースを設定し、PRに取り組んでいます。



歩いて巡るダム湖周遊ウォーキング

【約4.1km・歩行時間約90分】
 徒歩でダム湖を周遊するコースは、新日本歩く道紀行100選の「絶景の道100選」に選ばれました。今しか見ることのできない絶景「ハツ場ダム周辺」を巡る道。

1 川原湯温泉駅 → 0.5km 10分 → 2 不動の滝 → 0.6km 10分 → 3 「道の駅」ハツ場ふるさと館 → 1.6km 30分

3 川原湯神社 → 0.2km 5分 → 4 川原湯諏訪神社 宝篋印塔

7 川原湯温泉茶師堂 ← 0.3km 10分 ← 6 川原湯温泉「王湯」 ← 0.7km 20分 ← 5 ハツ場大橋 ← 0.2km 5分

ハツ場周辺観光マップ

群馬県長野原町・東吾妻町

このマップは、ハツ場ダム周辺観光の中心となる「道の駅」ハツ場ふるさと館を中心に、周辺の観光地や自然環境を紹介しています。また、歩いて巡るダム湖周遊ウォーキングコースの詳細情報も掲載されています。

観光地情報:

- 日光東照宮
- 日光山
- 日光三ヶ所
- 日光二ヶ所
- 日光一ヶ所
- 日光八ヶ所
- 日光十ヶ所
- 日光十一ヶ所
- 日光十二ヶ所
- 日光十三ヶ所
- 日光十四ヶ所
- 日光十五ヶ所
- 日光十六ヶ所
- 日光十七ヶ所
- 日光十八ヶ所
- 日光十九ヶ所
- 日光二十ヶ所

歩いて巡るダム湖周遊ウォーキングコースの概要:

- コース全長: 約4.1km
- 歩行時間: 約90分
- コース内容: 川原湯温泉駅、不動の滝、道の駅「ハツ場ふるさと館」、川原湯神社、川原湯諏訪神社、宝篋印塔、ハツ場大橋、川原湯温泉「王湯」、川原湯温泉茶師堂

暖された渓谷美の中を歩こう！吾妻渓谷歩道

吾妻渓谷歩道は、吾妻川沿いに整備された歩道で、美しい自然環境を楽しむことができます。

◆道の駅「ハツ場ふるさと館」

ダム建設中および完成後の地域振興を目的として、国道145号沿いに、道の駅「ハツ場ふるさと館」を整備しました。この道の駅は、長野原町が所有する道の駅施設を、指定管理者制度により、地元が中心となって組織した株式会社に委託する形で運営を行っています。

草津温泉、吾妻渓谷、軽井沢方面などの動線に位置する「ハツ場ふるさと館」は、県内外から多数の来訪者で賑わっており、地元で生産された野菜や加工品の販売の場として、また、地域の雇用の場として生活再建の一端を担っています。



地元産野菜の販売



イルミネーションの実施

ダムが完成するとダム湖を間近に望むことができる立地条件を活かし、レンタサイクルやイルミネーションの実施など、運営会社と行政が協働して集客に取り組んでいます。今後も、ダム完成に向けて新たな振興プランの展開を計画しており、継続した発展が期待されています。

かわら ゆ おんせん
◆川原湯温泉

川原湯温泉を擁する川原湯地区は、地区の全戸が水没することから、代替地へ移転しました。

すでに温泉旅館や共同浴場「王湯」の営業が開始されており、毎年1月大寒の早朝には、気温が氷点下となる中で温泉を掛け合う「湯かけ祭り」が行われています。



共同浴場「王湯」



湯かけ祭り

◆クラインガルテンやんば

川原湯地区からダム湖を挟んで吾妻川左岸に位置する川原畑地区では、^{かわらはた}長野原町が運営する菜園付きの賃貸施設「クラインガルテンやんば」を整備しました。宿泊棟と菜園が一体となっており、別荘のような感覚で田舎生活を楽しみたい都会の方に、好評を博しています。利用者と地域住民とで交流も生まれており、地域振興に寄与しています。



◆住民総合センター「@ながのはら」^{あっと}

昭和4年に建築された旧役場庁舎老朽化に伴う新庁舎への移転に伴い、水没地区を始めとした住民相互の交流を図る施設として、住民総合センター「@ながのはら（あっとながのはら）」を整備しました。

役場新庁舎と一体となった建物内に、ダムの歴史等を学ぶことができる図書室、地域交流のためのホールなどを設けています。図書室は親子や学生から活用されており、ホールでは町行事や講演会等のイベントが実施されています。



成人式

「オール長野原」の実現に向けて

ハツ場ダム周辺では新たなインフラや振興施設整備が進んできましたが、ここまでご紹介させていただきましたように、長野原町ではダムのみならず、人・物・自然といった数多くの地域資源が存在しています。「吾妻川・ハツ場ダムエリア」と「浅間高原・北軽井沢エリア」を結ぶ「国道3起点」に象徴付けられるように、町全体が「オール長野原」として一体となり、インフラ、産業、文化、教育、防災を相互に関連付けながら、町政の運営に取り組んで参りたいと考えております。

本稿をご覧の皆様にも、是非一度、長野原町へお越しいただき、魅力を感じていただければ幸いです。



長野原町役場 旧庁舎